

百人、そのほとんどは初対面なわけだ。従ってこの洋上研修をすばらしいものにするためには、いかに自分の存在をアピールするにかかると、実際その通りだった。

さて、我々は十五組に分けられ、さらに各組五班に分けられた。船内では、過密スケジュールの中、事前研修でそれぞれあげた研究テーマについての討議、そして、その発表のための準備に時間を費やされた。ちなみに我十五組四

班は、ヤングパパこと伊藤敬一君の提案により「子育てについて」というテーマで望んだ。結果は、それなりにすばらしいものだった。



山崎義則さん

いよいよ下船、お別れの時が来た。十日間も一緒に行動し、苦しみ、考え、楽しんだ仲間。涙無くしては別れられない。

いい旅だった。県内にまた新しい友達ができた。その中でも光町から一緒に行った加瀬さん、伊藤君、大木君、今後同じ町で生きて行く三人とさらに親しくなれたこと。それだけでもこの研修はとても貴重だったと言える。

最後に、自分を推薦してくださった齊藤町長、社会教育委員の方々、本当にありがとうございました。

青少年

海外視察研修

私達六人は、第一回目の光町青少年海外視察研修(韓国へ三泊四日)に参加してきました。四年に一度の祭典であるオリンピックを観戦できたことは一生の思い出になりましたが、それと同時に、海外に出たことにより、多くの事を考えさせられ、また、学ぶことができました。この研修

に参加でき、とてもよかったと思つています。視察研修の六人の感想を次のようにまとめてみました。

九月二十一日、期待を胸に成田を出発。約二時間半で金浦空港に到着した。あたりの景色は日本とあまり変わらなく思われたが、看板のハンブル語と小銃を持った警備員の厳重な警備が韓国へ来たのだなと感じさせた。気温はいくらか高いようだ。

初日は史跡と中央博物館を見学、韓国の歴史や文化遺産に触れることができた。

二日目は、ソウル市街から四十キロほど離れた所にある民俗村へ行った。二百年から三百年前の季朝時代の民家二百棟が再現され、当時の服装をした人達が昔ながらの製法で物を作っていて、そのころの生活、文化をわかりやすく表現していた。

いよいよ三日目、待望のオリンピック観戦だ。まず、収容人員十万人というスタジアムの広さに驚いた。この日は女子マラソン、砲丸投げ、三段跳び、それに男子百メートル

ル子選が行われた。男子百メートル子選では、カールルイスとベンジョンソンを目の前で見る事ができ、一生の思い出となった。特にゴールの時など、駆け込むというよりは吸い込まれていくような感じだ、今まで経験した事もない程興奮した一瞬だった。



参加した6人のみなさん

韓国へ来て三日、何につけても気になるのは日本人のマナーの悪さだ。タバコを吸って注意されたり、夜中に酔って大声を出したり、他人の迷惑も考えず自分勝手なことばかりする。それに、外国人はエレベーターなどで会うと、必ずあいさつをしてくれるの

に、日本人はあいさつもできない。自分達だけでもぐとあいさつするよう心がけた。

私達はバスやタクシーを利用し、視察をした訳ですが、韓国の道路には、ガードレールなどの交通安全設備があまりなく、道ばたにはゴミが山のように積まれていて、しかも運転者が非常に乱暴な運転をし、車の中で足を踏んばつてしまうことがたびたびあった。なんと日本に比べ事故発生率は八倍、死亡率は二十三五倍だそう。

四日目、私達は思い出多い韓国を後に帰国した。研修を終えて感じたことは、経済的な成長も大事だけれど、それよりも人と人との触れ合い、精神的な成長の方が大切だということだ。これも海外へ出たからこそ感じる事ができたのだと思う。これからも多くの若者がこの研修に参加でき、貴重な体験ができれば良いと思う。

最後になりましたが、光町青少年海外視察研修に参加させていただき、ありがとうございました。